



Heilo! from LONDON

13.Dec.2023 No.9

五味 公人



皆さんお元気ですか？ 日本でもそうでしょうが、今年も寒さに震える季節がやってきました。朝と帰りに、毎日校門に立って挨拶をしていると、本当に季節の移り変わりを感じます。今は重装備をして立たないと、すぐに風邪をひきそうです。それに日も短くなり、児童生徒の下校する4時ごろには、めったにない晴れた日でも、薄暗くなっています。でも、いいこともあります。それはイルミネーションが映えるということです。昼の1時2時でも薄暗いので、街はイルミネーションで彩られます。特に今はクリスマスシーズン、きれいですよ！

さてロンドンでの生活も、あと3カ月余りとなりました。これまで暮らしていて、不思議に思ったり、日本とは違うなと思ったりしたことが山ほどあります。そのうちのいくつかを紹介します。

①日付の書き方が・・・2023年12月1日は、日本では2023.12.1ですが、イギリスやヨーロッパでは、1.12.2023です（ちなみにアメリカでは、12.1.2023だそうです）。そこでこの通信の発行日もイギリス風に日・月・年の順にしていますが、お気づきでしたか？ イギリスでは、誕生日が6/7なら、7月6日生まれなのですね。ところ変われば…。

②車は右ハンドル、でも・・・私がこちらで乗っている車は、TOYOTAのAYGOという車です。車体は日本の軽自動車の方が大きいのではないかとはいえないくらい小さな車ですが、排気量が1,000ccあるので走りは軽快です。ただ、軽と同じくらいの大きさなのに1,000ccもあるので、税制上のメリットがないことから、日本で売り出されることはないでしょう。だからこの車は、チェコにあるトヨタの工場



で、ヨーロッパ市場専用車として作られた車です。

しかしここで不思議なことが…。イギリスだから右ハンドル、しかもトヨタ車。なのにワイパーやライトのレバーが、日本の車と左右反対なのです！ その理由は、左ハンドル車として作られたものを輸入しているから、イギリスではレバーの位置が反対なのです。最初は戸惑いました「トヨタ車に乗っているのに」と。ちなみにイギリスでは、様々な国の車を見ることができます。日本やイギリス、ドイツ、イタリア、フランス、アメリカなどはもちろん、東欧系の車や中国、韓国の車などが街角で見られます。

さらに、EV車が多いのも特徴で、EV用充電機が、街のいたるところにあります。そのようにインフラ整備をしないと、日本でもEV車の普及が進まないでしょうね。

③多民族・・・ロンドンにいと、実に多くの民族が住んでいるというのを実感します。肌の色も目の色も、服装も、宗教も、そして言語も…。地下鉄に乗っていると、全く分からない言葉をしゃべっている人がよくいます。それに、見るからにアジアっぽい顔の私でも、街角で道を訪ねられたりアンケートを受けたりします。それだけ、人種や民族の壁がないということでしょう。ところがスコットランドの田舎など、都会から離れると、肌が白くて英語を話す「これぞイギリス人」ばかりです。ロンドンに慣れた私は、雑多な民族のロンドンに帰ってくると、逆にホッとします。



さてこれで、2023年のロンドン通信を終わります。よい年をお迎えください！

May Christmas bring you wonderful moments

that become warm memories.